「かわまち大賞」の評価ポイント

公益財団法人リバーフロント研究所　清水　晃

1．はじめに

河川などの水辺は、人々の生活の基盤となってきた。近代では、水運や貿易などで水辺が利用され、経済成長の中心となった。その後、産業構造や交通状況の変化により、水運は減少したものの、人々がやすらぎ、憩う場として、またスポーツやレクリエーションの場として利用されてきた。

かわまちづくりは、「かわまちづくり」支援制度実施要綱で以下のように定義されている。

“「かわまちづくり」とは、河川空間とまち空間が融合し、賑わいあるまちづくりによる地域活性化に資する良好な空間形成を目指す取組をいう”

この定義によれば、かわまちづくりは、非常に幅広い概念である。取組主体の観点からは、行政による取組も、民間による取組も含まれる。内容も、カヌー・SUPなどの水面利用、河川敷でのキャンプやバーベキュー、堤防を利用したサイクリング、河川そのものを活用した環境学習・自然体験、カフェ・マルシェなどの事業活動なども含まれる。さらに空間的にも、河川空間からまち空間まで広がりがある。

本稿では、平成30年度に国土交通省が創設した「かわまち大賞」の受賞地区の評価のポイントを整理し、今後の「かわまちづくり」に参考となる点をまとめた。

2．「かわまち大賞」の概要

（1）「かわまち大賞」の創設

国土交通省は、平成30年5月29日の、国土交通省生産性革命本部（第7回会合）において、新たに生産性革命プロジェクトに11件のプロジェクトを追加した。そのうち「河川空間活用イノベーション～未利用空間の活用による生産性向上～」は、既存の河川空間や堤防整備等により新たに生じる河川空間の民間事業者による利用を促進することで、地域の「儲ける力」を向上させるとともに、民間開発の促進を図るものである。

これを踏まえ、全国で進められている「かわまちづくり」の中から、他の模範となる先進的な取組を、国道交通大臣が認定する「かわまち大賞」が創設された。

図１　かわまち大賞ロゴ

（2）「かわまち大賞」の審査の観点

審査の観点として、a）先進性、b）継続性、c）創意工夫、d）連携性、e）効果（地域の活性化）の五つがある（平成30年度は、d）連携性を除く4項目）。**表1**に項目と着目点を示す。

表１　審査の観点

項目	着目点
a）先進性	全国の「かわまちづくり」のモデルとなるような、先進的な取組であること。
b）継続性	市町村、民間事業者及び地域住民等による組織や活動が継続的に行われ、発展していること。
c）創意工夫	利活用を活発化させるために、ハード施策及びソフト施策の両面で特徴的な工夫がなされていること。
d）連携性	活発かつ安定的な利活用・維持管理が行われるために、多様な主体が連携した体制が構築され、各主体の役割分担が明確で、適切に運営されていること。
e）効果（地域の活性化）	取組により、観光者の増加や地域の活動が活発化するなど、課題解決に資する良好な変化が生まれていること。

（3）受賞地区

かわまち大賞は、毎年2地区が受賞し、平成30年度から令和5年度まで計12地区が受賞している。**表2**に受賞地区の一覧を示す。

表２　かわまち大賞受賞地区

年度	地区名	市区町村	河川
令和5年度	松戸市地区かわまちづくり	松戸市	坂川
	大垣市かわまちづくり	大垣市	水門川
令和4年度	盛岡地区かわまちづくり	盛岡市	北上川、中津川
	石巻地区かわまちづくり	石巻市	旧北上川
令和3年度	閼上地区かわまちづくり	名取市	名取川
	大阪市かわまちづくり	大阪市	道頓堀川
令和2年度	北十間川かわまちづくり	墨田区	北十間川
	五ヶ瀬川かわまちづくり	延岡市	五ヶ瀬川、大瀬川
令和元年度	信濃川やすらぎ堤かわまちづくり	新潟市	信濃川
	美濃加茂地区かわまちづくり	美濃加茂市	木曽川
平成30年度	長井地区かわまちづくり	長井市	最上川
	天満川・旧太田川（本川）・元安川地区及び京橋川・猿猴川地区かわまちづくり	広島市	元安川、京橋川

平成30年度にかわまち大賞を受賞した広島市を、筆者は、令和5年10月に訪れた。京橋川沿いのカフェ等は、平日でも賑わいを見せ、また、旧太田川では、イベントが開催されており、現在も河川空間の利活用が活発に行われていた。

図２　京橋川オープンカフェの案内図

図３　旧太田川沿いで開催されたイベント

３．かわまち大賞受賞地区の「評価のポイント」

かわまち大賞の受賞地区の発表に併せて、それぞれのかわまち大賞地区の「評価のポイント」が公表されている。ここでは、評価のポイントを基に、かわまち大賞を受賞した地区の特徴を受賞年度別に2箇年ずつ整理する。なお、すべての受賞地区の評価のポイント一覧は、**表３**に示す。

（1）平成30年度・令和元年度

受賞した4地区の評価のポイントの共通点として、「連携」が挙げられる。「民間事業者と協議会」「若者・デザイナー・市民団体など多様な関係者」「民間事業者が参加運営」など様々な関係者が連携して、事業計画や運営を行っていることが評価されている。

連携の仕組みについては、「民間事業者を協議会がプラットフォームとなり選定するというスキーム」「指定管理者の枠組みを用いた運営の仕組み」「民間事業者が参加運営する模範的なモデルを形成」などそれぞれの地域の特性に応じた仕組み作りがなされており、評価されている。

また「『まち』と『かわ』が一緒になって都市を盛り上げてきた」「フットパスにより『河川空間』と『まち空間』が連携」など、空間としての一体感が評価されている。

（2）令和２年度・３年度

この２年間で受賞した地区の評価では、「規制緩和のスキーム」「商業施設の整備・運営」「民間事業者の積極的な関与」など、民間事業者との連携が評価されている。

一方では、「次世代への人材育成」「行政と民間事業者が『Design Guideline』を作成」「河川とまち・運河・港が連携」「歴史・文化を利活用」など、それぞれの地域特性を踏まえた独自の取組がなされており、その取組が評価されている。

（3）令和４年度・５年度

この２年間で受賞した地区の評価では、「民間が活動しやすい仕組みづくり」「民間事業者等による組織の活動が継続的発展」「様々な関係主体がかわまちづくりのプロセスに参画」など、様々な主体の連携が、共通して評価されている。

また、「参詣文化」や「施設の構造的に優れたデザイン」「石や素材の選び方」などハード施策が評価されている地区もある。さらに、「Park-PFI」「ウォーカブル推進都市の登録」「各種社会実験」など複数の仕組みを総合的に実施していることが評価されている地区もある。

表３　評価のポイント

年度	地区名	評価ポイント			
令和5年度	松戸市地区かわまちづくり	・河川が持つ水と緑の空間と宿場町として発展した周辺の寺社などの歴史的価値を結びつけ、坂川の水辺を中心とした都市再生につなげている。	・水質改善の取組を契機に、河川清掃、並木整備、祭り・イベントが継続して実施されており、自分たちの目の前の川を守り、育てていく姿勢が見られる。	・春雨橋親水広場とその対岸側に設置された階段とが一体的な空間を形成し、両岸での対話が可能になっている点がデザイン性に優れている。	・地域の参詣文化を「献灯まつり」として復活させたり、市民から桜の寄付を募る里親制度の取組は他地域の参考となる。
	大垣市かわまちづくり	・パブリックスペースを活用した民間活動を市がワンストップでサポートし、民間が活動しやすい仕組みづくりをしたり、クラウドファンディングでかわまちテラスの運営資金を調達した点が全国の参考になる。	・H28のかわまちづくり計画登録以降も、R2年のウォーカブル推進都市の登録、各種社会実験開始、R5の水都大垣再生プロジェクト始動と、複数の仕組みを総合的に使い、継続的、発展的な活動を展開している。	・沿川企業や店舗がイベントに合わせて自身の民地等で、プロギング（ジョギング×ゴミ拾い）やマルシェなど様々な取組を開始し、まちの活性化に貢献している。	
令和4年度	盛岡地区かわまちづくり	・北上川沿いの木伏緑地においては、東北地方初となる民間資金を活用した公園整備（Park-PFI）と併せ、河川空間を一体的に再整備することで、「かわ」と「まち」との一体的な賑わいを創出できており、まちなかへの波及効果が出ていると評価できる。	・木伏緑地運営者や中津川でのミズベリング検討会など、活動主体が新たに広がり、地域住民や民間事業者等による組織の活動が継続的発展していると評価できる。		
	石巻地区かわまちづくり	・震災直前に策定したかわまちづくり構想を継承し、河川堤防上の利活用に配慮した整備のほか、様々な関係主体がかわまちづくりのプロセスに参画しているなど、かわとまちをつなげた賑わい・憩いの水辺づくりは高く評価できる。また、施設の構造的に優れたデザインの高さ、石や素材の選び方など、細部にまで様々な工夫が施されていると評価できる。	・元気いちばは観光客だけでなく、市民にも日常的に利用されており、背後の復興公営住宅や民営住宅の整備と併せて河川空間が整備されたことで、まちへの波及効果も大きい。かわまちづくりの取組が復興まちづくりに大きく寄与していると評価できる。		
令和3年度	閖上地区かわまちづくり	・閖上地区は、震災で甚大な被害を受けたが、かわまちづくりの取組などにより居住人口が増え、商業施設の整備・運営により主体性を持って地域を盛り上げようとしている点は高く評価できる。また、社会実験中の舟運事業が定着すれば、新たな観光事業の一つの機運になる。	・河川とまち・運河・港が連携し、復興事業の中で拠点整備と河川整備を上手く組み合わせた点は高く評価できる。また、この地区を地域の拠点として育てて行こうという発想は災害復興・継承の観点から高く評価できる。		
	大阪市かわまちづくり	・道頓堀川は、全国に先駆けて先進的な規制緩和のスキームを使い、遊歩道を作って人の流れを変えたり、水辺空間や周辺の建築物を甦らせたり、舟運を実施してまちの中の水辺の価値向上を図ってきた。その活動実績は高く評価できる。	・乗船している人と橋の上にいる人が互いに手を振り合うフレンドリーな光景や、川沿いのお店の雰囲気や看板・垂れ幕など、大阪らしい賑やかな雰囲気の醸成に貢献しており、高く評価できる。		
令和2年度	北十間川かわまちづくり	・民間事業者の積極的な関与により、官民が連携して水辺の利活用を考えた工夫あるハード整備と都心部において実現したことはとても高く評価できる。	・観光拠点を結ぶ新たな動線や商業施設が生まれ、今後さらなる賑わいの創出が期待できる。	・行政と民間事業者が「Design Guideline」を設定し、地区全体のデザインの指針としてまとめて共有し、一体的空間を実現したことは、他の地区の参考となる。	
	五ヶ瀬川かわまちづくり	・鮎やなや畳堤など、地域資産や防災にまつわる歴史・文化を利活用しながら継承している取組はとても高く評価できる。	・高校生が河川でのイベントのボランティアとして運営に参加するなど、次世代への人材育成にも繋がっている面から継続性において評価が高く、他の地区の参考となる。		

令和元年度	信濃川やすらぎ堤かわまちづくり	・民間企業の意欲的参加により、都市部で民間企業がかわまちづくりに参加するメリットを体現し且つ新たな観光スポットとなり経済的な成果を出している。	・民間事業者が参加運営する模範的なモデルを形成するとともに、社会実験の実施、地元の受入体制、周辺環境整備などもあわせてできており、他の地区の参考となる。
	美濃加茂地区かわまちづくり	・若者・デザイナー・市民団体など多様な関係者の繋がり、地域の歴史文化（中山道・太田宿等）との繋がり、指定管理者による他地区のノウハウの導入など、非常に連携性があり、他の地区の参考となる。	・指定管理者の枠組みを用いた運営の仕組みを独自に作り、様々な合意形成を図り関係者と連携しつつ、創造性に富んだ事業運営を意欲的に行い成功させている。
平成30年度	長井地区かわまちづくり	・舟運で栄えた長井市の特性を活かし、地元団体と民間事業者がうまく協力して事業を進めている。	・フットパスにより「河川空間」と「まち空間」が連携し、さらにそれをつなげる役をボランティアガイドが担うことで、かわとまちの回遊性を向上させる取組が、際立って優れている。
	天満川・旧太田川（本川）・元安川地区及び京橋川・猿猴川地区かわまちづくり	・「まち」と「かわ」が一緒になって都市を盛り上げてきた長年の実績とともに、それが今なお継続され、まち側への波及効果をもたらしている。	・「民間事業者を協議会がプラットフォームとなり選定する」「得たお金を事業にまわしていく」というスキーム自体が全国のモデルとして、他地域にも波及している。

4．まとめ

評価のポイントについて、（1）から（4）にまとめると以下のとおり。

（1）多様な主体の連携の重要性

様々な主体の連携については、かわまち大賞創設から昨年度まで、評価ポイントになっている。かわまちづくり自体が多様な主体が参画する仕組みであり、連携が不可欠なものであることから、連携が円滑・良好に進められていることは、評価に値するものと考えられる。

連携先については、民間事業者が最も多いが、若者、デザイナーなど地域の事情に応じた連携先も挙げられている。

（2）民間事業者との協力

特に民間事業者との連携が多く評価されており、民間の活力を活かしたかわまちづくりの重要性が強調されている。

（3）地域特性を活かした取組

各地域の歴史、文化、自然環境などの特性を活かした独自の取組が高く評価されている。

（4）継続的な発展

単発的な取組ではなく、継続的に発展していく仕組みづくりや活動が評価されており、長期的な視点でのかわまちづくりの重要性が示されている。

これらの項目は、今後のかわまちづくりを進める上で参考になる重要な要素と言える。

特に、多様な主体の連携は、かわまち大賞の創設以来、様々な主体の連携が一貫して評価されており、かわまちづくりにおいて連携が不可欠であることが示されている。また、かわまち大賞の受賞地区を見ると、かわまちづくりの規模や関係する施設の規模が大きい地区だけではない。その地区の特徴を活かした取組が重要である。地区の特徴を活かした取組は、独自性や個性を表現するものであり、すべてのかわまちづくり地区において、重要な要素であると考えられる。

5．おわりに

本稿では、かわまち大賞受賞地区に対する評価のポイントから、どのような事項が評価されているかとりまとめた。

かわまちづくりに関わる方々にとって少しでも参考になれば幸いである。